

年少3歳児 「またやりたい！の泥遊び」

次もやりたい！

やる前に考えすぎない

〇汚れるのが嫌いな子が多い今年のりす組さん。でも、汚れるのを気にせず泥などの感触を楽しんでほしい。そのためには、泥遊びの“心地よく楽しい経験”が大切なのでは…。

「ここに足をつけてみよう！」
「たぶたぶ〜。」「とろとろ〜。」
「気持ちいい！」(深い学び)

泥はザルでふるって小石を除いた。
加わらない人も目にできる場〜保育室前に設置



手が汚れるのは嫌だけど足をつけるのは大丈夫かも…の人はこのゾーン

「お団子作ろう！」
「水入れていい？」(対話的)

足をつけることは出来ないけれど、手で触るのはやってみたい人はこのゾーン

側にはすぐ足を洗えるようたらいを用意。



本当はあまり好きでないけれど、先生がいるからやってみた。



お玉、スプーンなども使いながら安心して泥に触れられるように。

「そんなこと（泥遊び）したくない！」



「お団子作りたい！」
「混ぜてみるね！」
(主体的)

<見取った幼児の姿>

主体的 “やってみよう”と取り組んでみる。「明日もやりたい。」「今日もやろう。」

対話的 「気持ちいい!」「〇〇したい。」と、したいことなどを自然に表す。

深い学び やったことがないけれど、やってみた。嫌だと思ったけれど楽しかった。

話し合いから

●一歩踏み出すために有効だった援助は？

- ・保育室前に何日も継続してできるように**泥場を常設**した。
⇒**個々に合わせた場**が保障されるような、柔軟な環境設定。(手だけ、足だけ、物を使って、泥がついてもすぐに洗えるなど)
⇒サイズが丁度よかった。(走れない大きさ。)
- ・土から軽石を取り除く(教師がふるいで取り除く)ことで、とろとろの土になる？⇒教師が**土の感触にこだわる**。
- ・教師が**じっくりと関わる**。

●この経験を次にどのような経験につなげていくか？

- ・泥、砂、水、絵の具、片栗粉、石鹸などの感触遊び心地良さをたっぷりと味わう。
- ・泥団子づくり
⇒繰り返すことで道具の扱いや手の技術面などが身に付く。
⇒見立て遊びへの発展。
⇒汚いものではないことにも気付いていく見通しがもてるようになっていく。

先生と一緒に泥遊び♪



一人一人の心に寄り添って泥遊び



汚れても平気な様子



年長さんと一緒に泥遊び

